

# 200カイリ水域内漁業資源総合開発調査

本 永 文 彦

## 1. 目的及び内容

本調査は国庫委託を受けて昭和52年度より継続実施している。

沖縄県水域内における重要漁業資源を、科学的根拠に基づいて資源管理を行なうのに必要な漁獲統計および生物情報を収集することを目的とする。

## 2. 方法

### ①漁獲量統計の整理

沖縄水試では1989年より沖縄県内各市場に水揚げされる漁獲量統計を収集している（市場情報収集解析システムの開発）。この資料を用い、漁法別魚種別漁獲量統計を作成し漁業動向モニターの指標として利用する。

また、糸満漁協に水揚げされる魚種について、同漁協職員にセリ山当たりの尾数を記録することを依頼している。この資料を用い、“たまん”や“あかじん”などの体重組成を作成し、年齢構成を推定する指標として利用する。

### ②標本船調査

糸満漁協所属の底延縄船を標本船として指定して、毎月の出漁日、漁場位置、魚種別漁獲量の報告を受ける。

### ③生物測定調査

沖縄各地で漁獲されるとびうお類の種類組成や体長、体重、性別、生殖腺重量、成熟状態、胃内容物組成を毎月購入し調査する。

## 3. 結果

### ①漁獲量統計の整理

得られた漁獲量統計は詳しい漁場位置や漁獲努力量に関する情報を欠くが、地域別の漁法別魚種別漁獲量と漁法別の水揚げ隻数を知ることができる。現在、これを用いた漁獲量統計を作成中であるので、整理次第別途報告する。

### ②標本船調査

標本船による詳しい漁獲状況についての資料を受領し、現在資料の整理中である。

### ③生物測定調査

伊江島と糸満、八重山の3漁協より標本を購入し、詳細な生物測定を行なった。この調査は平成2～4年度に実施予定であり、最終年度の調査が終了後に別途まとめて報告する。